

児童 4年女1名 5年男1名 計2名
指導者

1 単元名 「文のとおりに(B) / しつ問に答えよう(B、C)」

2 児童と単元について

(1) 児童について

本学級には、4年生2名(A女、B女)5年生1名(C男)の3名が在籍している。

Aは、対人にかかわるこだわりが強く、複数の人がいる状況では落ち着いて学習に取り組めないため、別室において個別支援員と1対1で学習している。従って通常、教室で学習しているのは、BとCの2名である。

Bはこれまで、絵を見て2～3語文をつくったり、「～の上に」などの位置を表す言葉を学習したりしてきた。日常生活で使われる主な動詞を用いて文をつくるようになった。昨年から文を読んで、そのとおりに作業することとおして文の理解を図る学習を行っている。昨年は、3文程度の文を読み、文のとおりにお弁当箱に食品模型を詰めていく学習を行った。文のとおりに品目を選ぶことはできたが、「〇〇を2こ」というような個数にまでは注目することができず、あるだけ全部詰めてしまった。文中の語句に、より注意を向けることができるようにしていきたい。さらに、自分の意志を伝えたり、質問に答えたりすることに困難を示していたBだが、支援者との信頼関係をもとに、少しずつオウム返しから自分の言葉を返すことができるようになってきた。さらに会話ができるようになってほしいという願いを込めて、簡単な質問に答える学習も行っていきたい。

Cは3～5文の文章の読み取りと助詞や接続詞の使い方、言葉の意味理解を深める学習を行っている。昨年からは、「やり・もらい」の関係を読み取ってきた。日常、「やり・もらい」の関係はたくさん存在するが、「あげる・もらう」という言葉を適切に使ったり、「だれがしたことなのか」「だれにされたことなのか」を適切に伝えたりすることが難しいので、改善につながればと考えて指導してきた。1学期間は、「やり・もらい」の関係だけを焦点化して扱ってきた。2学期からは、昔話などを題材にしなが、登場人物がしたこと、言ったこと、登場人物同士のやりとり(「やり・もらい」の関係を含む)を読み取ってきている。挿絵などを手がかりにしなが、関係の理解を図っていきたい。

本単元にかかわる児童の実態について、日常の観察から、次のようにとらえた。

児童	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」にかかわる様子	
B 4年	話すこと	ほしいものややりたいことなどを1～2語文で伝えることができる。
	聞くこと	3～4語文程度の簡単な指示を聞いて理解することができる。
	書くこと	絵などを見て2～3語文をつくることができる。
	読むこと	漢字混じり文を読むことができるが、十分に理解しているとはいえない。
C 5年	話すこと	簡単な会話をするすることができる。出来事や意思を3～4文で伝えることができる。
	聞くこと	簡単な指示や説明を聞いて理解することができる。
	書くこと	ローマ字も含めて自由に表記することができる。経験を基に3～4文の文章を書くことができる。字の形にこだわり、何度も書き直したり、泣いたりする。
	読むこと	簡単な文章を読んである程度内容を理解することができる。

(2) 単元について

「文のとおりに」は、文を読んで、そのとおりに作業しながら文の理解を図っていく学習である。絵を操作することで、意欲を高めたい。本単元では、男の子や女の子が買い物をする文を用意し、文のとおりに品物

の絵を選んでいく。絵は、それぞれパン屋、お菓子屋など6つの仲間分けされたボードにはり付けておき、その中から選ぶようにする。第3次では、品物名だけでなく、個数にまで注意を向けることができるようにしたい。

「しつ問に答えよう」は、Bには本人や級友の写真を見せて、「だれ」「どこ」「何をしている」などの簡単な質問を用意する。

Cは、文の読み取りや言葉の意味理解を深めることをねらいとする。紙に質問を書いておき、それを読んで考え、口頭で答える。読み取りの題材として、「さるとかに」を用いる。始めのさるとかにの場面は、文章が簡潔でやりとりを理解しやすい。次のかにかが柿の種を育てる場面や敵討ちの場面は、同じ型の文章が繰り返されるので読み取りを進めやすいと思われる。他には、言葉の定義やなぞなど、スリーヒントクイズなどを通して、言葉の意味理解を深める。言葉の定義は、単語について属性や機能、一般的なカテゴリーなどを答えるもので、その単語についてもっている知識を自分の言葉でまとめて文にすることが要求される。なぞなどやスリーヒントクイズは、提示されたいくつかの言葉を統合させて推理し、それによく当てはまる単語を探し当てる。知っている単語の意味を確認したり、より確かに理解したりするための一助になると思われる。

(3) 指導について

「文のとおり」の第1次・第2次では、全ての品物を1つずつ用意し、品目名にのみ着目すればいいようにする。第1次は、1つの店から買い物をし、第2次は、複数の店から買い物をする。第3次では、同じ品物を複数用意し、品目名と個数の両方に注目することができるようにしたい。

Bの「しつ問に答えよう」で、「だれ」「どこ」「何」がそれぞれ人、場所、対象物を指すということは、Bには少し難しい。ここでは正確さをあまり要求せず、オウム返しではなく自分のことばで答えることができればよしとしたい。第1次では、選択肢を提示して答えやすくする。

Cは、登場人物同士のやりとりの理解を促すために、絵を動かしながら文を読み、質問に答えていく。なぞなどなどの言葉の意味理解を深める学習は年間をとおして行う。一般的ななぞなどには、とんちを含んだものも多いが、とんちの理解はCには難しいので、属性や機能、一般的なカテゴリーなどから単語を類推できるような出題の仕方をする。へんかつくりを合わせて漢字を構成する漢字パズルや教科書の音読も年間を通して行う。学習に負担を感じさせないよう、短い課題を複数組み合わせる。失敗経験に弱いので、間違えたり分からなかったりするものが少なく済むように難易度を加減し、分からないときはキーワードを再度提示するなどの支援を行うが、気持ちの揺れの程度に応じては即正答を教え、嫌な気分をできるだけ引きずらないようにする。また、間違いを指摘されることを非常に嫌がり、色々なことに関して周囲から干渉を受けずに一人でやりたいという気持ちも生じてきているので、困って援助を求めたときに支援をするようにする。書く作業は、実態のところでも述べたように情緒の安定を著しく欠いて、学習の継続が困難になることが予想されるので、当分行わないことにしている。

B、Cともに、情緒の安定を欠いたときは、その程度に応じて課題の量を加減する。

3 単元の目標

B 簡単な文を読んでその内容を理解することができる。

簡単な質問に答えることができる。

C 文を読んで、登場人物の言動や登場人物同士のやりとりを理解することができる。

知識を言葉で表現したり、いくつかの言葉から推理して単語を言い当てたりすることができる。

4 単元の指導計画

「文のとおり」B(お店屋さん) 12時間

時	ねらい	学習活動	評価
第1次 1～3	1文を読んで、書いてある品物が分かる。	文を読み、そのとおりに品物の絵を選ぶ。	文のとおり絵を選ぶことができたか。
第2次	2文を読んで、書いて	文を読み、そのとおりに品物	文のとおり絵を選ぶことが

4～6	ある品物が分かる。	の絵を選ぶ。	できたか。
第3次 7～12 (本時 8/12)	1～2文を読み、品物と個数が分かる。	文を読み、個数にも注目して、品物の絵を選ぶ。	個数にまで注目して絵を選ぶことができたか。

「しつ問に答えようB(だれ・どこ・なに)」12時間

時	ねらい	学習活動	評価
第1次 1～6	選択肢の中から答えを選び、質問に答えることができる。	写真を見て「だれ」「どこ」「何をしている」などの質問に答える。(選択肢あり)	選択肢の中から答えを選び、質問に答えている。
第2次 7～12 (本時 8/12)	自分の言葉で質問に答えることができる。	写真を見て「だれ」「どこ」「何をしている」などの質問に答える。(選択肢なし)	自分の言葉で質問に答えている。

「しつ問に答えようC(さるとかに)」16時間

時	ねらい	学習活動	評価
1～2	さるとかにが柿の種とおむすびを取り替えっこしたことを読み取ることができる。	1場面を読み、それぞれが拾った物を読み取る。 取り替えっこした後、それぞれが何を持っているかを考える。	取り替えっこした後、さるとかにが何を持っているかを読み取ることができたか。
3～8	種から芽が出て、木になり、実をつけたことを読み取ることができる。	2場面を読み、種から何が出たか、芽が何になったか、木に何があったかについて考える。	種から芽が出て、木になり、実をつけたことを読み取ることができたか。
9～10	さるとかにのやりもらいの関係を読み取ることができる。	「青いかきを投げつけたのはだれか。」「青いかきを投げつけられたのはだれか」を考える。	「投げつけた」のはさるで、「投げつけられた」のはかにであることを読み取ることができたか。
11～12	子がにと出会った4人の登場人物を読み取ることができる。	「ころころころがって」「ぶーんととんで」「べたっとすわって」「でんでんと」やってきたのはだれかを考える。	子がにと出会った4人の登場人物を読み取ることができたか。
13～14	子がにたちがそれぞれどこにかくれたかを読み取ることができる。	「いろりの中に」「みそおけの中に」「水おけの中に」「入り口のそばに」「屋根の上に」にかくれたのはだれかを考える。	子がにたちがそれぞれどこにかくれたかを読み取ることができたか。
15～16 (本時 15/16)	さるとはち、子がに、牛のふんのやり取りについて読み取ることができる。	「さるをさしたのは」「はちにさされたのは」「子がにに切りつけられたのは」「さるを切りつけたのは」だれかを考えることができる。	さるとはち、子がに、牛のふんのやり取りについて読み取ることができたか。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- B 文を読んでそのとおりに絵を操作することができる。
 写真を見て「だれ」「どこ」「何」などの質問に答えることができる。
- C 文を読んで内容を理解し、「～したのはだれか」「～されたのはだれか」などの質問に答えることができる。
 知識を言葉で表現したり、いくつかの言葉から推理して単語を言い当てたりすることができる。

(2) 評価規準

児童	(+)の規準	(-)の際の支援
B	文中の語句によく注目して正しく絵を選ぶ。 「だれ」「どこ」「何をしている」の質問に答える。	文中の間違えている箇所と絵を指さし、訂正を促す。 選択肢カードを提示する。
C	文を読んで考え、「～したのはだれか」「～されたのはだれか」などの質問に正しく答える。 単語についても持っている知識を自分の言葉で表現したり、いくつかの言葉から該当するものを類推したりすることができる。	キーワードを再度提示する。 正答を教える。

(3) 展開

段階	B		C	
	・支援 ◎評価	学習活動 ○発問	学習活動 ○発問	・支援 ◎評価
導入 入 份	・声かけをして学習に誘う。	1 席に着く。	1 課題の入ったかごをセッティングする。	・机の上に課題が入ったかごを置く。
展 開	・写真カードと「だれ」「どこ」「なにをしている」と書いた文字カードを1枚ずつ提示しながら質問する。 ・うまく答えられないときは、選択肢カードを示す。 ・答えることができたときは、ほめて励ます。 ◎質問に答えることができたか。	2 写真を見て、質問に答える。 ○「だれ」 ○「どこ」 ○「何をしている」	2 絵を動かしながら「さるとかに」のお話を読み、簡単な質問に答える。 (1)挿絵を見ながら文カードを並べて読む。 (2)文に合わせて絵を動かしながら読む。 (3)簡単な質問に答える。 ○「～したのはだれですか」 ○「～されたのはだれですか」 ○「～と言ったのはだれですか。」	・少し離れて見守り、困ったときに正答を教える。 ・極力声かけを控え、本児が自分のペースで学習に取り組むのを妨げないようにする。 ◎「～したのはだれか」「～されたのはだれか」などの質問に正しく答えることができたか。
	・文と絵を提示する。絵は始めから全部提示し、文はひとまとまり毎に短冊にし	3 文を読み、そのとおりに絵を操作する。 「あきこさんは、おか	3 スリーヒントクイズ 3つのヒントから該当するものを当てる。	・間違えたものについては、キーワ

43分	<p>て提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違えたときは、文のその箇所を指して訂正を促す。 ・特に、数詞に注意が向きづらいときは、繰り返して言ったり、指で数を示したりする。 ・正しく選ぶことができたときは、ほめて励ます。 <p>◎文中の語句によく注目して絵を選ぶことができたか。</p>	<p>しやさんで、チョコレートを2こかいました。」</p> <p>「よしおくんは、ぶんぼうぐやさんでえんぴつを3ぼんかいました。やおやさんで、トマトを2こかいました。」など</p> <p>4 音読 2年上の教科書を読む。</p>	<p>4 ことばの説明</p> <p>(1) 5つの言葉について、その意味を話す。</p> <p>(2) 5つの言葉について、その意味を選択肢の中から選ぶ。</p> <p>5 なぞなぞ 5問のなぞなぞに答える。</p> <p>6 色と形クイズ 色や形から連想される物を言う。</p> <p>7 助詞を入れて文を読む。</p> <p>8 漢字パズル 2つのパーツを合わせて8つの漢字を完成させる。</p> <p>9 音読 4年下の教科書を読む。</p>	<p>ードを再度提示するか、正答を教えるが、受け入れる状態にない時は、チェックしておいて、次時の指導に生かす。</p> <p>◎単語についてもっている知識を自分のことばで表現したり、いくつかの言葉から該当する物を類推したりすることができたか。</p> <p>・読み始めと読み終わりを付箋紙で示す。読み間違えそうな漢字を紙片に書き出し、読み仮名を振っておく。</p>
終 末 份	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばって学習したことを賞賛する。 		<p>10 かごを片付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばって学習したことを賞賛する。